令和２年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

				No.	21-005
PDCA	事務事業名	地域自殺対策強化事業	部課等名	健康子ども部 保健センター 健康担当	担当：榊原 内線等：84-0646

P 総合計画との関係性等

政策体系	章：　第２章　子育てと暮らしを地域で支え合うまち 節：　第３節　健康増進と医療体制の充実 基本施策：　１．健康づくり 単位施策：　（３）疾病予防・感染症に対する取り組み 個別施策：　③こころの健康づくりの推進
根拠法令等	自殺対策基本法、愛知県地域自殺対策強化事業費補助金交付要綱
対象・目的	自殺の問題は、個人の問題ではなく、社会の問題であることから、誰もが自殺の問題を我が事としてとらえることができるよう、市民一人ひとりのこころの健康づくりを進めると共に、生きるための包括的支援としての自殺対策を推進します。
目的を達成するための手段・活動内容	・こころの健康相談として、「こころの保健室」「若年層（39歳以下）向け相談」を実施する。 ・市民を対象に「こころの健康講座」や地域にて「健康相談」を実施することで、セルフケアやこころの健康について普及啓発する。必要時は、専門機関へつなぐ。 ・新入職員、民生児童委員及び市民向けにゲートキーパー養成講座を開催し、自殺を考えている人に適切な対応ができる人材を養成する。 ・半田市の自殺対策の指針となる「半田市自殺対策計画」を策定して２年目となり、次年度の中間評価に向けて、進捗状況や課題を明確にする。

D 前年度の活動結果と見られた成果

活動結果

活動実績	29年度	30年度	元年度	単位
①こころの保健室相談者数	34	44	53	人
②こころの健康講座参加延べ人数	1,045	1,201	968	人
③青年期の心理相談相談者数	―	―	―	人
事業費	319	548	900	千円
人件費	2,855	6,558	6,210	千円
総事業費	3,174	7,106	6,441	千円

活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位
①こころの保健室の一人あたりのコスト	11,409	10,025	7,791	円
②こころの健康づくりの一人あたりのコスト	754	838	988	円
③青年期の心理相談の一人あたりのコスト	―	―	―	円

成果

成果指標		29年度	30年度	元年度	単位
①こころの健康講座参加者満足度	実績値	81.5	87.1	―	%
	目標値	100.0	90.0	―	
②ゲートキーパー養成講座の受講者のアンケートで「自殺を考えている人に声かけができる」人の割合	実績値	91.3	82.9	89.9	%
	目標値	90.0	90.0	80.0	
③地域でのストレスチェックの実施回数	実績値	―	―	39	回
	目標値	―	―	20	

C 課題の整理

観点別評価

必要性		有効性		効率性	
①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ない
②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある		※対象・手段の変更
③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない

事業の評価・課題：B

・半田市自殺対策の指針となる「半田市自殺対策計画」に基づき、様々な事業を行った。
・自殺対策のための人材育成を目的とする「ゲートキーパー養成講座」を対象を広げて実施した。受講後のアンケートの「自殺を考えている人に声かけができる」という人の割合は目標を達成することができた。また、地域でのストレスチェックを多くの人に実施し、３９歳以下の若年層にもこころの健康について考えてもらえる機会になった。
・こころの健康講座は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため実施せず。申し込み状況から、市民のニーズがあると思われるため、次年度も市民のニーズに合わせた講座を実施する。

A 課題解決のための目標

今後の事業の方向性：統廃合等

年齢を問わず市民一人ひとりの身体とこころの健康づくりを総合的に推進していくため、令和２年度より、本事業を健康づくり推進事業に統合する。若年層（39歳以下）を対象にしたストレスチェックや健康相談を充実させ、こころの健康について考える機会を設け、必要な支援につなぐ。さらに、自殺対策には日々のこころの健康が重要であるため、身近でこころの健康と関連が深いテーマを選別して講座を開催する。

令和２年度の目標

成果指標	目標値	単位